イタリアの統一（リソルジメント）　　1848年革命失敗後の課題＝民族的な統一国家の建設！

19世紀に入ってもなお分裂状態にあったイタリア（ドイツも同様）にとって統一は死活問題。
クリミア戦争でウィーン体制が崩壊、サルデーニャ王国中心のイタリア統一が実現する。

統一運動の序盤

《統一直前の状態》

ロンバルディア	オーストリア領
南ティロル	オーストリア領
ヴェネツィア	オーストリア領
トリエステ	オーストリア領
パルマ公国	ブルボン家
モデナ公国	エステ家
トスカナ大公国	ブルボン家
両シチリア王国	ブルボン家
サルデーニャ王国	サヴォイア家

≪ウィーン体制下での運動≫

カルボナリの活躍

1820-21年　**ナポリ蜂起**　復活ブルボン家に対する**カルボナリ**の反乱。
　　オーストリア軍に粉砕され失敗

1831年　**ピエモンテ蜂起**　トリノで**カルボナリ**の武装蜂起
　　これもオーストリア軍に粉砕され失敗

≪七月革命の影響が及んだ時期≫

1831年「【1:　　】」結成。通常、「党」はつけない

指導者は【2:　　】、共和政によるイタリア統一をめざす。

≪二月革命の影響が及んだ時期≫

1848年3月18日　ミラノ蜂起（「**ミラノの５日間**」）　オーストリア宰相メッテルニヒが失脚すると、ミラノ市民は（ロンバルディアなのでオーストリア占領下）ヨーゼフ=ラデツキー率いるオーストリア軍に対して蜂起。臨時政府を樹立し、一時オーストリア軍を撤退させたが、8月5日にミラノ陥落。再併合された。ヴェネツィアでも同時期に蜂起が起きた。

《参考》この独立運動を鎮圧したラデツキー将軍を讃えた行進曲が有名な「ラデツキー行進曲」(1848年作曲　ヨハン=シュトラウス1世)。作曲の経緯とは無関係にイタリア人指揮者も好んで演奏する名曲。ウィーン・フィルのニューイヤーコンサートの定番となっている。YouTube等で試聴できる。

1849年、【2】は「**ローマ共和国**」を樹立。しかし、イタリアの統一に一貫して反対の**教皇の要請**を受けた**フランス軍**の攻撃で崩壊。仏軍は1870年まで教皇領に駐留。

本格的統一運動

1）【3:　　】王国（サルディニア王国とも言う）による統一運動が開始された。

【3】王国は、産業革命の中心地ピエモンテ地方を擁する豊かな王国。王家はサヴォイア家。スペイン継承戦争で反仏同盟側につき、ユトレヒト条約(1713)でシチリア島を獲得。1720年にハプスブルク家との間でシチリア島とサルデーニャ島の交換が行われサルデーニャ王国が誕生した。18世紀中から中央集権を目指した。立憲王国としてイタリアの統一をめざしていた！（穏健な自由主義）

①1848年、二月革命の影響で、サルデーニャ国王カルロ＝アルベルト 位1831-49　11W は自由主義憲法（アルベルト憲法）を制定し、イタリア統一のためにオーストリアと戦った。1848年、クストーザの戦いに敗れて挫折。1849年退位。ポルトガルに亡命。息子が継承。

②1849年、サルデーニャ国王、【4:　　】位1849-61 即位
　1852年、王は穏健な立憲主義者で貴族の【5:　　】任1852-61 を首相に任命した。

2）国王**ヴィットーリオ＝エマヌエーレ２世**と首相**カヴール**のイタリア統一運動　　2)は難解にして頻出！

①クリミア戦争 1853-56 でイギリス、フランスに援軍を送り、特に**フランスの支持**をとりつけた。

②ナポレオン３世との【6:　　】(1858) で、サヴォイアとニースを割譲する条件でイタリア統一戦争（対オーストリア）勃発時においてフランスはサルデーニャを支援することが約された。翌年、この密約を知ったオーストリアとの間で戦争が勃発した(1859)。実際にイタリア統一戦争が始まると、同年７月、ナポレオン３世はサルデーニャの強大化を懸念して勝手にオーストリアとヴィラフランカの単独講和を行い、密約を反故にした。サヴォイアとニースは割譲せずにすんだが、統一は完成せず、同講和でオーストリアから【7:　　】を獲得するにとどまった。

【7】の名の由来はランゴバルド王国（№61参照）。

③1860年、中部イタリア諸国でサルデーニャへの併合を希望する声が高まると、カヴールはフランスと交渉し、**フランスにサヴォイアとニースを割譲する代償に、トスカーナなど中部イタリアを併合する**ことを認めさせた。同年、パルマ、モデナ、トスカナの３公国でサルデーニャへの併合を求める民衆蜂起が起きた。

3）1860年、元【8:　　】のメンバーだった【9:　　】1807-82 は、「**千人隊**（赤シャツ隊）」を率いて【10:　　】（シチリア島とナポリ）を占領した。彼は共和政による統一を望んでいて、民衆をまきこんだ

統一運動を南部から展開し、教皇領を占領すべく北上した。

ヴィットーリオ=エマヌエーレ２世は、1861年、ガリバルディーと会見し、《教皇領を攻撃すればフランスがイタリア統一を妨害するだろう》と説得して北上をあきらめさせたとされているが、実際はカヴールが軍事力で威嚇し、ガリバルディーに両シチリア王国（シチリア島とナポリ王国）をヴィットーリオ=エマヌエーレ２世に捧げさせた。こうして、1861年、イタリア半島は統一された。

【11:　　】で国会を開催しイタリア王国の成立を確認した。こうして、**1861年、イタリア王国の成立**を見た。

首都：トリノ 1861～65、フィレンツェ 1865～71、ローマ 1871～

初代国王ヴィットーリオ=エマヌエーレ２世　首相カヴール（統一実現直後に急病死）

この時点では**【12:　　】と【13:　　】はイタリア王国に含まれていない**。11W

4）イタリア王国が成立して間もない時期に

①1866年、プロイセン･オーストリア戦争（普墺戦争）でプロイセンを支持してオーストリアから**ヴェネツィア**を奪い併合。

②1870年、プロイセン･フランス戦争（普仏戦争）に乗じて、**教皇領を占領**。《頻出》

その後、イタリア国王とローマ教皇は1929年のラテラノ条約まで反目しつづける。

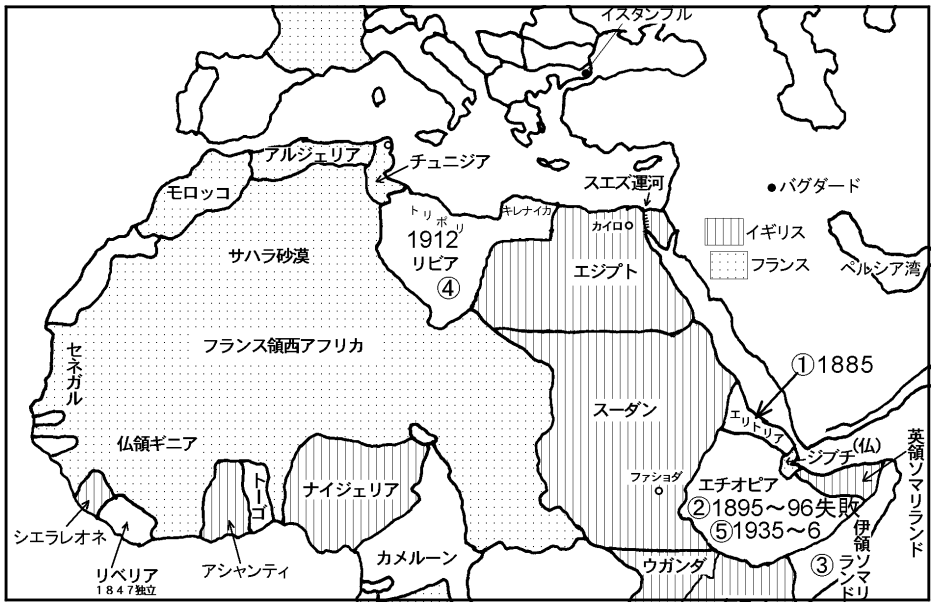
プロイセン・オーストリア戦争、プロイセン・フランス戦争自体についてはNo.135で詳述する。

☆いわゆる「【14:　　】」問題を後に残した。‥‥南ティロル、トリエステなどイタリア人居住地は、本来はイタリアの領土であるという主張に基づくもの。　A面の図で必ず確認せよ！

5）その後のイタリアの歩み。

ア）南北での経済格差が生じた‥‥工業が発達した北部中心の政治が行われ、南イタリアでは５年にわたる**農民戦争**がつづいた。農民反乱は鎮圧され、貴族大地主の支配は温存された。

イ）対外的には地中海周辺で勢力確立をはかり、紅海沿岸、アフリカに進出した。



以下の①～⑤は左図上の①～⑤に対応している。

①イタリアは【15:　　】をエチオピアから分離させ、1885年に占領した。

②1895～96年、第１回エチオピア戦争　フランスから武器を供与されたエチオピア軍はゲリラ作戦でイタリア軍を撃退した。1896年３月、**【16:　　】の戦い**でイタリア軍完敗。このときのエチオピア皇帝は【17:　　】位1889-1913 である。

③1880年代までに、イタリアはインド洋沿岸部に植民地を築いていた。ソマリランドでモハメド=ビン=アブドラによる反英反乱が発生、これに乗じてイタリアはイギリス領ソマリランドの一部を占拠、1908年までにイタリア領ソマリランドを成立させた。

④イタリア・トルコ戦争（1911-12）で占領した部分。イタリアがオスマン帝国にしかけた侵略戦争である。イタリアが勝ち、【18:　　】（1912年）により【19:　　】を併合。

トリポリ＝リビア西部地域、キレナイカ＝リビア東部地域　（現在のリビア）

⑤1935～36年　ムッソリーニ政権は、恐慌による経済危機から国民の目をそらすため【20:　　】侵入を実行した。国際連盟は経済制裁を議決したが石油禁輸が実行されず効果は薄かった。1936年、イタリアはエチオピアを併合した。イタリアは日独に続き国際連盟を脱退した(1937)。

6）イタリアは立憲君主国として歩み、議会の整備とともに国王の政治的重要性は低下していったが、憲法上のいくつかの権限は残っていた。ムッソリーニのローマ進軍(1922)の時、政府は鎮圧案を提案したが国王はこれを拒否したのでムッソリーニ政権が成立した。このことも一因となって、第２次世界大戦後、王政の是非をめぐる1946年6月の国民投票で王政廃止を求める票が過半数を超え、最初で最後のイタリア王家サヴォイア朝は終わった。

7）同じ時期に国家統一の３国

1861年　イタリア王国成立
1871年　ドイツ帝国成立　＜　1868年　**大日本帝国成立**

10年の間に相次いで近代国家への大変革を成し遂げた３国は資本主義が遅れて発達、資源に乏しい等の共通点を持ち、「持たざる国」の主張を共有し、同じくファシズム化の道をたどり、第２次世界大戦の敗戦国となった。なお「持たざる国」という用語は、使用する者が植民地再分割の要求を正当と認めるニュアンスを含む。何を正当と考えるかは個人の自由だが、注意を要する。